



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

群馬県 高崎市立寺尾中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- **目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- **事業名** : JOCオリンピック教室
- **主催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- **後援** : スポーツ庁
- **協力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- **対象** : 中学2年生
- **講師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- **期間** : 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- **実施校数** : 80校程度
- **実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 **運動の時間 / 50分**

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 **座学の時間 / 50分**

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「
オリンピックの価値」等を
伝える



個人またはグループワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 村上 睦子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年12月7日(水)

■ **ク ラ ス** : 2年1組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・アトランタ1996大会に出場し、7位に入賞したと自己紹介した後、運動の時間と座学の時間でオリンピックについて考えていくが、運動の時間では、「ルールを守り、どのようなことにも挑戦する」、「仲間と声を掛け合って思いやりを持ちながら協力する」、「アイデアを出し合って班で工夫する」の3つの約束事を意識しながら、取り組んでほしいと伝え、準備運動に移る。

○主運動 等



・準備運動として、バスケットボールを使用したストレッチやボールハンドリングを実施。
 ・主運動として、「シュート競争」を実施(全2回)。各班2球ずつ割り当てられ、体育館前後2箇所のゴールに設置してあるマーカーまで1人ずつドリブルで移動してシュートを打つ。シュートする位置で得点が異なり、シュートが入ったら、置いてあるマーカーを持ち帰る。制限時間内に次々とシュートし、持ち帰ったマーカーの合計得点を競う。



・運動の時間を振り返り、2回目の得点を上げるにはどのようにしたらよいか、班毎に話し合いながら取り組み、難しいシュートにも積極的に挑戦する姿が素晴らしかった。冒頭に伝えた3つの約束事を守りながら取り組めたかを問いかけると、皆の手が挙がった。座学の時間では、運動の時間に感じたことも踏まえながら、オリンピックの歴史やオリンピックバリューの3つの価値について、皆で考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 村上 睦子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年12月7日(水)

■ **ク ラ ス** : 2年1組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



●座学の時間では、オリンピックに出場するまでの過程やオリンピックに出場した際の経験も踏まえ、皆でオリンピックについて考えていきたいと授業の目的を確認し、東京2020大会を観戦したかと問い掛けながら、日本の選手が様々な競技でメダルを獲得したが、印象に残っているのはバスケットボール女子が銀メダルを獲得したことと話す。日本を代表するエースの選手がケガで出場できず、チームメイトが仲間の分も自分たちが頑張るしかないと感じ、強い気持ちを持って挑んだからこそ、結果を出すことができたことを伝える。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：日常生活をより良く充実したものにするために何ができるかを考えてみよう。

発表：エクセレンス：「挨拶をする」「何事にも全力で取り組む」「自主的に行動する」等

フレンドシップ：「思い合って行動する」「積極的に意見を出し合う」「仲間のためにもたくさん練習を頑張る」等

リスペクト：「お互いの良さを認め合う」「家族への感謝の気持ちを忘れない」「相手がいることに感謝する」等



●座学の時間を振り返り、皆も考えて発表してくれたようにオリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの価値はオリンピックに出場した選手だけのものではなく、普段の生活の中にも含まれているので、オリンピックバリューの3つの価値を考えながら過ごし、より良い生活を送ってほしい。中学3年生になるとオリンピックについて学ぶ時間もあるので、今日のオリンピック教室で学んだことを思い出しながら、取り組んでほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 村上 睦子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年12月7日(水)

■ **ク ラ ス** : 2年2組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・アトランタ1996大会に出場し、7位に入賞したと自己紹介した後、運動の時間と座学の時間を通して、オリンピックやオリンピックバリューについて考えていきたいと授業の目的を確認し、運動の時間では、「ルールを守り、どのようなことにも全力で取り組む」、「仲間と声を掛け合って思いやりを持ちながら協力する」、「アイデアを出し合って班で工夫する」の3つの約束事を意識しながら、取り組んでほしいと伝え、準備運動に移る。

○主運動 等



・準備運動として、バスケットボールを使用したストレッチやボールハンドリングを実施。
 ・主運動として、「シュート競争」を実施(全2回)。班毎2球ずつボールが割り当てられ、1人ずつ体育館前後2箇所のゴールに設置してあるマーカまでドリブルで移動してシュートを打つ。シュートする位置で得点が異なり、シュートが入ったら、置いてあるマーカを持ち帰る。制限時間内に次々とシュートし、持ち帰ったマーカの合計得点を競う。



・運動の時間を振り返り、2回目の得点を良くするにはどのようにしたらよいか、班毎に話し合いながら取り組み、積極的に難しいシュートにも挑戦する姿が素晴らしかったと称え、冒頭に伝えた3つの約束事を守りながら取り組めたかを問い掛けると、皆の手が挙がった。座学の時間では、運動の時間に感じたことも踏まえながら、オリンピックの歴史やオリンピックバリューの3つの価値について、考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 村上 睦子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年12月7日(水)

■ **ク ラ ス** : 2年2組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



●座学の時間は、オリンピックに出場するまでの過程やオリンピックに出場した際の経験も踏まえ、皆でオリンピックについて考えていきたいので、メモを取りながら参加してほしいと授業の目的を確認。東京2020大会を観戦したかと問い掛けながら、日本の選手が様々な競技でメダルを獲得したが、バスケットボール女子が銀メダルを獲得したことが印象に残っていると話す。その後、近代オリンピックについて、ピエール・ド・クーベルタンがスポーツを通して世界平和の構築を目指して創設し、1896年に第1回大会を開催したと説明。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：日常生活をより良く充実したものにするために何ができるかを考えてみよう。

発表：エクセレンス：「課題をしっかりと出す」「諦めないで努力する」「ご飯をたくさん食べる」等
フレンドシップ：「困っていたら助け合う」「意見交換をして関心を深める」「優しい心を持つ」等
リスペクト：「親に感謝する」「どんなことにも感謝する」「相手の話を聞く」等



●座学の時間を振り返り、皆が考えてくれたようにオリンピックバリューの3つの価値は普段の日常生活の中にも存在しているものなので、意識しながら生活し、より良い学校生活を送ってほしいと伝える。その後、実際に着用していたユニフォームを見せながら、バスケットボールはボールがないと試合ができないが、勉強もペンや紙がないと書くことができないので、普段使うものも大切に扱ってほしい。中学3年生になると改めてオリンピックを学ぶ機会があるので、今日、皆で考えた内容も思い出しながら、取り組んでほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

